

小・中学生の環境問題への関心および環境配慮行動に関する研究

—— 1991年と2001年調査の比較を中心に ——

教育振興室 谷村 載美

【キーワード】 環境教育 環境問題 環境配慮行動 持続可能な社会

研究のねらい

本研究は、小・中学生の環境配慮行動を促す環境教育を進めるにあたって留意すべき点を明らかにすることを目的にしている。

まず、1991年と2001年に実施した調査の結果を比較することにより、小・中学生の環境問題への関心の程度と環境配慮行動に対する考えや実践内容がどのように変化したのか、その実態を明らかにした。次に、2002年に実施された小学校におけるごみを題材にした環境教育の現状を探り、ごみに対する環境配慮行動を促すには今後どのような点に改善を加えればよいのかを検討した。さらに、環境配慮行動に至るまでに必要な環境問題への関心を高めるのに身近な動植物との直接経験が関与するのかを検討した。

環境配慮行動を促す環境教育を進めるには

調査結果等から、小・中学生の環境配慮行動を促す環境教育を進めるには、次の点に留意する必要があることが明らかになった。

- ・ 自然との直接経験を通して、自然に対する感性や環境を大切に思う心情を育てる。
- ・ 観察を通して生態系概念を育成する。
- ・ 他の生物、他の地域の人々、将来世代への影響を考えて行動できる地球市民の育成をめざす学習を構想し、展開する。
- ・ 環境配慮行動の具体的な手法を知り、責任をもって実行した結果、有効感を得られるようにする。
- ・ 学校、家庭、行政、地域、事業所、地域社会の連携を図る。
- ・ 指導者自身が自己研鑽に努める。

〈調査の概要〉

- ・ 調査対象者は、大阪市立の小学校5年生～中学校3年生の児童生徒。
- ・ 有効回答数は、1991年は3198、2001年は2602。
- ・ 調査期間は、1991年と2001年ともに11月。
- ・ 調査方法は、質問紙法。

調査では、①環境問題に関する情報入手の経験の有無、②環境問題に関する情報の入手先、③環境問題への関心の程度、④いま最も関心のある環境問題、⑤したらよいと思う環境配慮行動、⑥実際にしている環境配慮行動について回答を求めた。

また、大阪市内に生息・生育している動植物を実際に見た経験の有無、採集した経験の有無、採集的遊び経験の有無、飼育・栽培経験の有無についても尋ねた。

調査の結果、次のことが明らかになった。

- ・ 大阪市内小・中学生の環境問題への関心および環境配慮行動の実践化の程度は、10年前に比べて高まっているとはいえない状況にある。
- ・ 動植物を見た経験、採集した経験、飼育・栽培した経験が多い群は、少ない群より環境問題に関する情報入手の経験率が高く、環境問題への関心も高い。

〈調査結果の一例〉

